

校歌つづつ飛驒

下呂市立総島小学校

校歌を覚えていますか？ 今でも歌えますか？
初めて聞いた入学式、力いっぱい歌った運動会、涙と共に送られた卒業式……。だからこそ校歌の思い出は、仲間と
過ごした情景が浮かんでくるのではないのでしょうか。そして校歌は学校や地域を見つめてきたと言えるのでしょうか。
この紙面では毎回各学校の校歌を紹介し、校歌から学校と地域の歴史をひもときます。

作詞・作曲

浅本義一郎

一 みどりも深き ひだ山の

ふもとに立てる 総島校

自然のれい気 身に受けて

共にきたえん このからだ

二 流れも清き 馬瀬川に

のぞみて立てる 総島校

善友良師に めぐまれて

共にみがかん この心

馬瀬川

竜ヶ峰(高山市清見町)を源流に、下呂市金山町の飛驒川に合流するまでの長さ約50km、標高差二四〇mの馬瀬川は、淵と瀬が連続する様子と澄みきった水が美しい清流です。中流域の下呂市馬瀬地区では、「川」と「森」と「人」の結びつきや調和を大切にされた地域づくりを進めています。

開校

総島小学校の創立は、惣島大野地内の芝居小屋を仮教場として開校した明治六年です。新校舎の完成は明治二四年、同三八年に二つの分教場(後の名丸分校・下山分校)が開設され、大正七年に惣島栃尾(馬瀬川左岸)に本校が新しく建てられました。昭和二二年に小中併設の学校となり、翌年に総島中学校の校舎が、その一年後に総島小学校の新しい校舎がそれぞれ完成しました。名丸分校は昭和四二年に、下山分校は昭和四六年に閉校となりました。昭和五八年の中学校統合で単独校となった総島小学校は、昭和六二年に馬瀬川右岸(惣島井戸垣内)の現所在地に移転しました。



昭和34年の校舎

長い伝統を有する総島小学校は、今年度を最後に閉校となります。平成二一年四月には中切

校歌

小学校と統合し、新しく馬瀬小学校が誕生します。

「雲を貫く飛驒ヶ峰や我等は此処に生を受く清冽比無き馬瀬川や我等は此処に礼を得つ」
勇壮ですが少し古風な表現のそれまでの校歌に替わり、新しい小中学校の校歌が制定されたのは昭和二六年のことです。当時、総島中学校勤務の浅本義一郎先生が作詞・作曲を担当しました。

清らかで情趣に富んだ歌詞とゆつたりとした美しい旋律が見事に調和した校歌です。

三つの自慢

総島小学校の子どもたちは、今年度三つの自慢づくりに取り組んでいます。
「あいさつ自慢」では、校内だけでなく、地域の方々にも明るく元気な挨拶ができるよう心がけています。

「歌声自慢」では、毎朝全校三二名で美しくさわやかな歌声を響かせ、秋の市音楽会にも全校で参加します。

「やさしさ自慢」では、仲間や「人」のことを思いやるだけではなく、自然や環境にもやさしい姿が自慢です。

総島小学校の歴史

明治6年	学校開設
明治24年	校舎新築
昭和22年	小中併設校開設
昭和34年	総島小学校新築
昭和58年	小学校単独校となる
昭和62年	現在地に新校舎完成



校舎と子どもたち